

平成30年度 業務棚卸評価シート

| | | | |
|----------|----------------|--------|--------------|
| No. | 36 | 担当部課名称 | 教育推進部学校教育指導課 |
| 事務事業名 | 特別支援教育支援事業 | | |
| 見直しのタイトル | 響きあい交流送迎バス活用事業 | | |
| 添付資料 有無 | 無 | | |

1 現状における課題

- ・ 特別な配慮を必要とする児童・生徒の経験を広め、社会性を養い、積極的に社会に参加・自立しようとする意欲を育てるため、響きあい交流送迎バス活用事業を実施している。
- ・ 響きあい交流送迎バス活用事業の内容としては、茅ヶ崎養護学校の児童・生徒との交流や茅ヶ崎市屋内温水プールでの活動、その他社会参加や自立活動、相互交流のための校外活動に伴う児童・生徒の送迎を行っている。
- ・ 今後の特別支援学級の増設を踏まえ、響きあい交流送迎バス事業の実施について検討する必要がある。

【趣旨】

全校設置に向けた特別支援学級の行事の在り方について児童・生徒の安全面や利用施設、バス運行の状況を鑑み見直しを図るとともに、事業を担当する指導主事や各学校の担当者の負担軽減を図る。

【具体的内容】

現在、特別支援学級の全学年を対象に同事業を行っているが、今後の特別支援学級増設の方向を踏まえ、対象学年や実施回数等、事業内容について見直しを検討する。

3 改善により期待できる効果

- ・ 指導主事の負担が軽減する。
- ・ 事業の見直しにより送迎バスの運行本数を削減する。

4 実施スケジュール（概要）

2～3月 今年度の状況を検証し、次年度に向けて検討する。

5 実施結果の振り返り

・特別支援学級の児童・生徒の送迎バスを使っでの活動希望が多くなったことから、平成18年度より特別支援学級の児童・生徒のみを対象とした事業として実施している。平成25年度より市内半日利用の場合とそれ以外の場合での料金体系が変わったこと及び特別支援学級在籍児童・生徒数の増加により、バス利用の効率化を図るための学校の組み合わせ等の工夫を行ってきた。

今後、次期教育計画の期間内において、特別支援学級の全校設置を検討していることから、対象学年や実施回数等、事業内容について見直しを図っていくことが必要である。

小学校特別支援学級合同宿泊学習については、在籍児童数の増加及びより細やかな身体的配慮を必要とする児童等の増加により、平成30年度からは、安全面も考慮し、対象学年について従来の全学年から4年生以上へと変更している。

現在、特別支援学級担当者研究会と連携を図りながら令和3年度以降における適正なバス利用について検討しているところである。